

平成22年度 第10回 常呂まちづくり協議会 会議要旨

◎日 時	平成23年3月23日（水）午後6時00分～
◎場 所	常呂総合支所 2F 第1会議室
◎出席者	協議会：11名 清井会長、山内副会長、秋葉委員、大川委員、澤向委員、新谷委員、鈴木委員、寺町委員、広瀬委員、三角委員、室田委員
◎北見市	白石総合支所長、森田保健福祉課長、三嶋市民環境課長、辻産業課長、松本建設課長、鈴木教育事務所長、芥川生涯学習課長、加藤図書館長、表子育て支援室主幹、武田ところ遺跡の森所長、土島農業委員会事務局長 事務局：吉田次長、川村地域振興担当係長、佐伯地域振興担当

開 会

清井会長 : 挨拶

会議成立 : 委員15名中11名出席（自治区設置条例第7条第3項）

報 告

- (1) 北見市行財政改革推進計画について
- (2) 合併後これまでに実施した行財政改革の主な取組と翌年度予算への財政効果額（推計）について
- (3) 平成22年度北見市行政評価結果概要について
- (4) 中期財政計画について
- (5) 平成23年度予算（案）の概要について
- (6) 第3次実施計画について

清井会長 : (1) から (4) について、一括して事務局から報告願います。

事務局 : 資料に沿って説明

清井会長 : ただいま、事務局から説明のありました4つの報告事項について、何かご質問等ございますか。

鈴木委員 : (4) 中期財政計画についての資料の16ページに3収支不足の状況と対処方策の目標額とあるが、目標額が漠然とした数値で項目ごとに数値化されていないので実質的に目標にはならないのではないのでしょうか。目標として作るのであれば、細かく数値を書き込むべきだと思います。

白石支所長 : 意見として賜ります。

新谷委員 : (1) 北見市行財政改革推進計画についての資料の検証結果報告書ですが、職員が内部で検証したものですよね。いくつか見たのですが評価がぬるいなと

感じました。例えば、4ページ1番の職員提案の推進は制度の見直しには至っていません。12ページ9番の縦割り型組織に捉われないプロジェクト制度の導入は現時点で活用する事務事業が見当たらないとあるが、本当なのかなと思うのが一般的です。縦割り行政のあり方がいつも問われる行政システムのなかで、何も見当たらないという自己評価は、結果的には市民ニーズや市民目線の評価とは程遠いのではという気がします。冒頭、会長が地震のことを言われましたが、テレビや新聞報道で見たように縦割り型組織に捉われていたらどうにもならない状況があの画面から感じる中で、事務事業が見当たらないというのはどうなのか。やはり、それぞれの職員が部局の力を持って横断的に対応していかなければならない状況というのは、まさに地震災害をお手本にするくらいに作り上げていかないと、行政のシステム自体が硬直化して機能しないということにつながるのではないかと思います。どういう評価の中でこういう資料になったのかは分かりませんが、そう感じました。

白石支所長 : 縦割り行政のことについて言えば、従来から行政というのは縦割りの組織を作ってきました。これの弊害を何とかしたいという思いのなかでスタッフ制を導入しました。それぞれ担当はあるのだけれど、横との連携をとるという形をとってきました。縦組織としては強いものはあるけれど何かのときに弾力的に動けないといったことを見直すということで、かなりの職員論議をしてきたのですが、今、議会の中でも指摘を受けているのは、やって10年も経つのに弊害だとか責任の所在がどうもピンボケになってきているということがあって、改めてこのスタッフ制も見直すという時期に来ています。ですから、これから先に向けてはこの部分もきちんとした論議をさらにやって整理をしていきたいという項目になっているということなんです。

新谷委員 : 中期の計画をみていると、検討、検討でいつやるんだという感じでずっと検討している状況なので、やはり目標値をどこにおくのか最低でもこの段階からスタートしようだとか物事を進めようだとかがないと、市民向けにこういうのをやっているとお書いておけばいいみたいな雰囲気には伝わってこないのが残念です。

白石支所長 : そういう意味で真剣さにかけるといったことを言われる可能性もあるのですが、担当を含め真剣な論議をしているのですが、なかなか具体案を示せないところでの弱さが検討という言葉になっているのだと思います。

鈴木委員 : 今の評価ですが、結局は行政側がやっていることを行政が評価しているということですよ。評価というのは、市民が納得できる評価という部分からすると、とりあえずどう評価したかは別にして、評価する人間が外部ということのほうが納得できるのではないかと思います。

白石支所長 : たたき台をつくるのは、企画財政部の中に専門のセクションを設けていて課題別に整理していく。そのたたき台を外部の方に見ていただいて、そういう甘いという部分も含めて、いろいろ言っただきながら整理をしているという状況です。ですから、職員だけの思いでまとめているということではなく

ています。

鈴木委員 : それであれば、外部の人達が評価をしているということを一緒に知らせないと、今みたいな自分達の内部評価じゃないかという声があると思うので、そのへんの部分を市民の方もわかったほうが良いと思います。

清井会長 : 次に、(5)と(6)について、内容が関連しますので一括して事務局から報告願います。

事務局 : 資料に沿って説明

清井会長 : ただいま、説明のありました2つの報告事項について、何かご質問等ございますか。

委員一同 : 意見なし

### その他

清井会長 : 次に、その他でございますが、先般2月8日に正副会長会議をここで開催しまして、各まちづくり協議会の正副会長といろいろな意見交換をしたところでございますが、そのなかで、留辺蘂のまちづくり協議会から、「ミントの香り漂うまちづくり」ということで、配布しております資料のとおり紹介がございました。新北見市としての一体感を高めるための取組として、全市的に取り組んでみてはどうか?というもののようですが、まち協として全体で取り組みましようということまでには至りませんでしたので、こういう話があったということで、ご紹介をしておきたいと思います。

清井会長 : 以上をもちまして、平成22年度第10回常呂まちづくり協議会を終了いたします。

### 【次回開催日程】

事務局 : 次回の協議会の開催についてですが、4月下旬を予定しております。改めて日程調整をしたうえでご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。